

本県の求める教師像、教職員評価制度（行動規準表）及び研修目標との関係

①本県の求める教師像

児童生徒に対する教育的愛情と使命感をもった教師

人間的なあたたかみをもって、忍耐強く児童生徒を指導できる。

豊かな教養や専門的知識を身に付けた教師

児童生徒に興味のあるわかりやすい指導ができる。

健康で明るく、人間性豊かな教師

児童生徒と教師がともに学び、ともに伸びることができる。



②教職員評価制度

行動規準表の「評価の着眼点」

第Ⅰ段階（～5年）

第Ⅱ段階（6年～15年）

第Ⅲ段階（16年～）

学習指導

- 指導計画の立案・実施
- 教材研究・指導法の工夫
- 評価の工夫

児童・生徒指導

- 児童生徒との信頼関係の構築
- 児童生徒への支援・指導
- 家庭・地域・関係諸機関との連携

参画・経営

- 校務分掌への取組
- 学級・学年経営
- 学校経営への参画
- 家庭・地域・関係諸機関との連携

意欲・態度

- 教育的愛情・熱意
- 法令の遵守等
- 責任感・寛容性・協調性等
- 研修に対する意欲



③ステージごとの研修目標

(次頁に掲載)

各ステージで身に付けたい資質・能力

ステージⅠ（初任者～） ステージⅡ（5年目～） ステージⅢ（10年目～） ステージⅣ（20年目～）

- ステージごとに、これから身に付けていくべき資質・能力が示されています。
- 基本研修で、全ての項目を取り扱うわけではありません。
- 目標として示された資質・能力を身に付けるために、専門研修や自主的な研修にも取り組む必要があります。



④研修内容ごとの目標

総合教育センターにおける研修内容ごとの目標

- 講話・演習・研究協議等の前に、それぞれの目標が示されます。
- 研修の直後、「研修評価・振り返りシート」で目標に沿って自己評価します。